

◇ 大 山 美佐子 議員

○ 5 番（大山美佐子） おはようございます。一般質問を行います。

喜如嘉の芭蕉布について。

大宜味村の4つのキーワードとして芭蕉布の里、長寿の里、シークワサーの里、ぶながやの里がある。「喜如嘉の芭蕉布」は昭和49年重要無形文化財の指定を受け保持団体として、喜如嘉の芭蕉布保存会がある。昭和59年通産省の「伝統的工芸品」の指定を受け、喜如嘉の芭蕉布事業協同組合ができた。

今、現在人間国宝平良敏子氏が百歳現役で芭蕉布会館に通っています。

そこで、2点について伺う。

①昭和61年大宜味村芭蕉布会館ができ、後継者育成の場として見学者を受け入れ7,000名余りの入館者がいる。県内で唯一の芭蕉布施設であるが、老朽化している。今後において建て替えの計画はあるのか。

②今芭蕉布に携わる方の平均年齢は82歳です。このままでは10年後の組合存続が危ぶまれています。芭蕉布の組合存続について、大宜味村としての具体的な取り組みを伺う。

○ 村長（宮城功光） お答えいたします。

①については、現時点で建て替えの計画はございません。

②につきましては、組合の運営に関しましては、村内の一つの事業者として組合自身が考えていくべきものと捉えております。

しかしながら、芭蕉布の里として、村づくり及び沖縄県の歴史においても芭蕉布の価値、そして喜如嘉の芭蕉布のそのブランドが地域振興に大きな力を与えてくれるものと理解しています。

これまでも組合と沖縄県との連携により、人材育成、産業振興関係の事業に取り組んでまいりましたが、今後の芭蕉布産業に関する取組について、再度、課題の洗い出しと解決に向け、関係機関連携しながら取り組んでまいります。

○ 5番（大山美佐子） 建て替え計画がないのであれば、もちろん予算にかかわることだと思いますが、少しずつでも改修してほしいと思っています。NHKのドラマが北部を中心とした撮影があると聞いています。もし、我が大宜味村に見えるなら、4つのキーワードをアピールすることだと思いますが、芭蕉布会館が出たり、ビジターセンターが出たりするかもしれません。ター滝とか七滝、自然を利用した場所も観光地としては出るかもしれませんが、雨降りや台風とかち合うと見学できません。芭蕉布会館、ビジターセンターは室内なのでいつでも見学ができます。またうれしいニュースに塩屋漁港から定期船が与論、沖永良部を結び、観光客が多く

見えることだと思えます。そのためにも芭蕉布会館の補修、整備を強く要望します。

また、前回の議会でトイレ設置の予算が通りましたが、そのトイレがいまだに実施していないのはなぜですか、伺います。

○ 企画観光課長兼プロジェクト推進室長（福地 亮） 大山美佐子議員の質問にお答えいたします。

少しずつでも改修してもらいたいというような質問が1つありました。こちらにつきましては、この会館自体は昭和 56 年以降、耐震基準の制度が設定された後の建物にはなっていますので、老朽化ということは考えることもあるかもしれませんが、その基準からすると、まだまだ大丈夫じゃないかということは意識しております。ただ、会館の建て替えということではなくて、そのほかの計画と連動してやっていくことを想定していますので、そちらはまだ具体化しておりませんので、これぐらいの回答とさせていただきます。あと少しでも改修ということであれば、ドラマの関係を含めて、意識しながらもう少し芭蕉布の会館を見ながら、話は進めてまいりたいと思えます。

あとトイレの設置につきまして、12 月補正でさせていただきました。その後、設計業務が必要で設計を行って、設計業務は終わっております。

ただし、この設計業務から工事に移行する際に様々なことがありまして、建築確認は必要ないということが分かりました。ただ、建築確認ではなくて、建築の積算基準単価が3月1日以降でまた変更になったりとか、4月1日にまた変わるということが分かっていますので、その中で発注がなかなかうまくいかない。またそれ以上に、請け負ってくれる業者がいない。見積りに参加してくれる業者が見つからなかったということもひとつの要因となって、今回、提案させてもらっている予算の中で、繰越し事業として、今、提案をさせてもらっているところです。年度あけたらすぐ取り組むようになっています。積算の準備をしているところです。以上です。

○ 5番（大山美佐子）　じゃあ、②についてですけれども、芭蕉布組合員は現在12名います。組合員の成り手がいないのが悩みです。100歳を中心に平均年齢が82歳、本当に10年後はどうなっているのかと心配です。私も今、実際に芭蕉糸つむぎをしています。芭蕉は仕事としても、内職としてもやっていける仕事です。芭蕉の価値、大切さを今実感しているところです。後継者育成事業もあります。観光協会も設立され、芭蕉布組合の運営手助けになるよう、後継者育成に村としても力を入れてほしいです。その件を再度伺います。

○ 企画観光課長兼プロジェクト推進室長（福地 亮）　人材育成の件に

つきましては、平成 27 年の芭蕉の里基本構想というものが策定されて、その中で取り組むことがされてきました。ただ、村の独自の事業としては大きなものができなくて、村が特に取り組んだものとして P R の事業とかふるさと納税の返礼品の対応とか基本しながら、その人材育成をしようとしているときに沖縄県と連携を取りながらその人材育成事業が進んでいます。それは芭蕉布の原木を育てるところと管理をするというところで話をしながら、県のほうで今予算がついているという状況ですが、ただし、やはり芭蕉布の里としての、村の取組ですね、何か検討しなければいけないというのはずっとありますので、これからも、本当になぜ高齢化だけではなくて、若い人たちがここの芭蕉布の組合とか、作業に関わっていかないのかということ、課題を解決に向けた洗い出しをしないといけないということ、認識していますので、一緒になって進めさせてもらいたいと思います。以上です。

○ 5 番（大山美佐子） 大宜味村第 2 次観光振興基本計画、これなんですけれども、29 ページ、39 ページ、90 ページにも芭蕉布について記載されてきました。また令和 3 年度村長の施政方針の中で商工業、観光の振興の部門でもすばらしい展開、方針を訴えています。議会当日村長が読み上げましたけれども、それを再度私、読み上げます。国の重要無形文化財で

ある喜如嘉の芭蕉布について、その価値を認識し、村内外に広く P R 活動を展開するとともに、地場産業として成り立つ仕組みをつくり、伝統工芸を継承できる人材育成に関係機関連携して取り組んでまいりますと、村長が言っていました。私は今の質問は全てこの答えにあったような気がします。課長の皆様方も村長の施政方針をうまく受け継いで、やってください。以上で質問を終わります。